

## 平成 29 年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 3 回会議要録

- 1 開催日時  
平成 29 年 11 月 7 日(火)午後 2 時 00 分～4 時 00 分
- 2 開催場所  
練馬区役所本庁舎 19 階 1907 会議室
- 3 出席者  
委員長 健康部長  
副委員長 健康部健康推進課長  
委員 坂本委員、市川委員、今給黎委員、橋本委員、荒井委員、増子委員、  
戸田委員、井上委員、粕谷委員、若山委員、木川委員  
幹事 大泉保健相談所長、都市農業課農業振興係長、環境課地球温暖化対策係長、  
施設給食課学校給食係長、保育課保育所給食担当係長、生活衛生課食品衛生  
担当係長、健康推進課健康づくり係長、健康推進課歯科保健担当係長  
事務局職員 健康推進課栄養指導担当係 3 名、光が丘保健相談所栄養担当係長  
欠席委員 谷口委員、赤井委員、内木委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0 名
- 6 配布資料  
資料 1 平成 29 年度練馬区食育推進講演会について  
資料 2 食育推進ボランティア活動報告  
資料 3 「赤ちゃんからの飲む食べる相談」について  
資料 4 部会活動報告(若い世代部会)(案)  
資料 5 部会活動報告(ねりまの食育応援店部会)(案)  
資料 6 第 20 回 JA 東京あおば農業祭出展について(案)

### 7 平成 29 年 練馬区食育推進ネットワーク会議(第 6 期)第 3 回

#### (1) 開会

- (副委員長) 平成 29 年度第 3 回練馬区食育推進ネットワーク会議第 6 期を開催いたします。健康推進課長の丸山です。本日、健康部長は別の会議に出ておまして、終わり次第出席する予定です。それまで進行を務めさせていただきます。本日、若山委員、増子委員、井上委員、今給黎委員は少し遅れて出席すると連絡がございました。また本日、戸田委員が初めてのご参加ということで、一言ご挨拶いただけたらと思います。
- (委員) 戸田と申します。保育園の代表で出させていただきます。よろしくお願いいたします。

(副委員長) それでは、案件の1から始めさせていただきたいと思います。まず、資料1の平成29年度練馬区食育推進講演会について事務局の方から説明します。

(事務局) 資料1の説明

(副委員長) 今回、有名な先生に来ていただけるということで抽選になることを想定しています。委員の皆様のお席をご用意させていただきますので改めてお申し込みいただく必要はありませんが、もしご欠席という方はおっしゃっていただければと思います。何かご意見、ご質問はありますか。

(委員) 土井先生は10月の体育の日に行われる東京夢舞いマラソンという大会に毎年出られていて、僕は3年一緒に走った経験があります。気さくな方ですね。素晴らしい選択だと思います。

(副委員長) ほかにご意見等はございますか。では何かあればご意見をいただけたらと思います。続きまして、2番目の食育推進ボランティア活動の報告について事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料2の説明

(副委員長) 何かご質問、ご意見はございますか。

次に資料3 赤ちゃんからの飲む食べる相談ですが、今年度からの新しい食育事業で、健康づくり総合計画の重点事業として位置付けているものです。光が丘保健相談所の係長から説明をお願いします。

(庁内幹事) 資料3の説明

(副委員長) 男性の参加はありますか？

(庁内幹事) 数としては少ないですが、父親が離乳食作りを担当しているのでご夫婦と一緒に参加される方もいらっしゃいます。

(副委員長) そういう男性の方は離乳食作りが苦になっていないですか。

(庁内幹事) 父親が子どもに食べさせるのは母親としてもうれしいと他の相談で聞いたことがあります。離乳食を作るのは母親でも食べさせるのは父親だと、父親が子どもと関わるふれあいの機会が増えるのでよいという声を聞いています。

(副委員長) 予約不要ということですが、人数が多く来てしまったらどうするのですか。

(庁内幹事) 光が丘保健相談所で今までで一番多い参加だったのが25名でした。来所数が多くてもいいように、スタッフは自分を含めて4名おります。1グループは自分が担当し、もう1グループは違うスタッフが担当します。それを2クール行いますので、1グループ7人×4回で最高でも30名くらいは対応できる体制をとっています。

(副委員長) 他に質問やご意見はありますか。

(委員) 予約なしで費用も無料というのがいいと思います。これは里帰り中の方でも参加することはできますか。

(庁内幹事) 基本は区民の方が対象ですが、里帰り出産をされて練馬でしばらく子育てする

という方については、基本的には受け入れています。

(委員) 出産後の赤ちゃん訪問など、練馬区は子育て世代に手厚いと思っていましたが、これにも参加できるということですね。

(庁内幹事) 保健相談所には栄養士の他に保健師や歯科衛生士などいろいろな職種があります。産まれる前から妊婦さんが孤立しないようにいろいろなサポート体制があります。

(副委員長) 保育園では離乳食の相談を受けたりすることはありますか。

(委員) 自分の園は1歳から預かっている保育園ですので、園の子どもは基本的に離乳食が終わっています。入園相談に来る保護者の方は産まれたばかりの赤ちゃんを抱っこしながら見学に来ますので、そういう保護者の方に保健相談所でこのような事業があるということを紹介できたらいいなと思いました。

(副委員長) ぜひお伝えいただきたいと思います。では続きまして資料4の部会会議の報告です。8月31日に2つの部会を開催しました。それぞれの部会ごとに活動についての報告をして、それに対してご意見をいただきたいと思います。まずは若い世代部会について、資料4の説明を事務局からお願いします。

(事務局) 資料4の説明

(副委員長) 委員の方々には2つの部会に分かれていただいておりますが、まずは若い世代部会の委員の方から一言ずつお話しいただきたいと思います。

(委員) 私はアニメやDVDを活用するのはどうかと提案しました。ココネリでアニメが流れていると、若い人が買い物しながら何気なく見えています。何気ない機会に、練馬には畑がたくさんあるということを知らせるというのは自然に意識の中に入っていき、いい方法ではないかと思います。ただ金額的に難しいところがあるとは思いますが。

(委員) 入学式や成人式のように、与えられた場所に来た若い世代に対して、情報提供をするという方法はアプローチ案としていいと思います。

(委員) アニメやDVDの意見については、費用度外視で自由な意見を言わせていただきました。検討内容の具体的なアプローチ案については、活発な意見が出ました。特に入学式や成人式については、毎年若い世代の多くの方が集まる機会ですので、そういう時を利用しない手はないと思います。また、区内には大学もありますので大学との連携もいいと思います。コンビニについては、特に学生や単身者の食生活の生態を考えたときに、コンビニに通う機会は多いと思うので、コンビニとの連携もよいと思います。先日の部会では頭をやわらかくしていろいろな意見が出たと思います。資料にあるアプローチ案以外にもたくさんアイデアが出てくるとと思いますので模索しながら、できることから着実に形にしていけたらと思います。

(委員) 自分は教員ですので、立場から言うとやはり練馬区の若い世代が国と比較して

バランスのよい食事を食べる人の割合が低いという状況は非常にショックです。自分の食を考える習慣を定着することや、体を意識した食事をとることを伝える機会は、小学校や中学校での教育が担う部分が大きいと思います。とはいえ、今の学校は様々な食育のプログラムを組んで授業を行い、給食では行事食などいろいろなことに挑戦しています。今日私がお配りした資料は、練馬区の中学校で行っている「自分で作る朝ごはんコンクール」についてです。今回11回目の実施で、毎年区役所のアトリウムに展示をしていますが意外と知られていないことを知り、今年はいろいろな作戦を考えました。また、今回JAのご協力をいただいたことを資料に記載しています。ぜひ11月25日から30日までの間、区役所アトリウムの展示を見ていただきたいと思います。出来は素晴らしいです。5000点以上の中から各学校選りすぐりのものが出ています。食育については学校が担う部分で責任を感じています。事務局の資料にあるように、自分で自分の健康を考える人の増加、選食能力を高めるとありますが、学校関係者としてはここに力を入れていきたいと感じている次第です。

(委員) 保育園の給食は大変こだわっています。やはり食育の一番の基本はおいしいものをちゃんと食べるということなのではないかと考えておりますので、かつお節は自分が選んで、問屋から指定して入れておりますし、みそは子どもたちが手作りをしています。お米は契約した秋田の農家からお米を入れていて、塩や砂糖や醤油も全部私が指定したのものを使っています。20代、30代というちょうど保育園にお子さんを預けている保護者の方の世代です。保護者会の度に試食会をして、園ではどのような食材を使って作っているかを毎回伝えていきます。やはり子供の食事については、お父さん、お母さん方の意識も高まります。保育園の給食がおいしくて家のごはんを食べないという声を聞くこともありますので、保育園の給食の作り方についてはよく聞かれます。私はおいしくないものを食べなくなる味覚を育てることも大事だと思っています。私自身は小学生の時、学校の給食は大変おいしいと思って食べていましたし、どんなものでもおいしいと思って食べられるというのは一つ大事な教育とは思いますが、学校給食の食材や味付けについて、本当においしい食事を作る体制になっているのかについては、業務委託が進んでいる件と含めて心配に思っています。以前かつお節の問屋の社長と話した時に学校や行政の給食のかつお節の入札は、なるべくコストを下げるために重さで一番安いところをとると聞きました。かつお節は乾燥の具合がとても重要で、よく乾燥していなければ重さはあるけれども品質としては悪いかつお節でおいしくない。けれども安いから入札が通るといのはおかしいという話をしました。やはりコストをしっかりとかけないとおいしい食事はできにくいと思いますので、そこに価値を見出して行政としてコストをかけるべきだと思います。

(副委員長)ありがとうございました。今の話で学校教育の方では何か取組はありますか。

(庁内幹事)特にありません。

(副委員長)ではご意見として承ります。ここからは司会を部長に変わります。

(委員長) 次に食育応援店部会の報告で、資料5の説明を事務局からお願いします。

(事務局) 資料5の説明

(委員長) では食育応援店部会の皆様に一言ずつお話しいただきたいと思います。

(委員) チラシの作成の際には意見を出しましたが、裏にお店の情報も載っていてとてもいいと思いましたが、また次に新しい情報を加えて作るということだったので、もっといろんな人に見てもらえるようなポスターを作れば周知が進むのではないかと思います。食育応援店の登録や周知の活動など進んでいることを感じましたので、進んでいることのアピールも一緒にしていければいいのではないかと思います。

(委員) 第1回の会議で配付された資料を見たときに素晴らしいと思いましたが初めて見るものばかりでした。これだけ資料があるのだから、練馬区民の多くの人にもっと広めていくべきだと思います。食育応援店のポスターについては、新しく作るよりも、前のものをそのまま使ってもよいと思い、部会で意見を出させていただきました。

(委員) 農協は提供する側の立場で、いつも皆様の意見を参考にさせていただいています。よく農協には安くいいものがあるということを言われますが、ただ安いわけではなく、旬の時期のものはたくさんあるから安く出せているということです。先ほどの話にあった、食事にはお金をかけるべきというご意見に関してはすごく共感しました。農協で旬の野菜をその時の値段で買うということは、実際は安いわけではないけれどもいいものを買えているということです。安心、安全の面でいうと生産履歴がないと売れないという時代までついにきてしまいました。実際野菜も安心なものを食べたければ、農協に来てくれればよいということです。食材の値段が高い時はものが無い時で、走りか名残りです。旬ではありません。でも出始めの時のいいものだから、値段は高いけれども安心なものを食べる。そして数がなくなってきた時はそれは名残りということになります。旬の時期はたくさんその食材が流通している時で、その時期は安心安全な食材がスーパーで買っても農協で買っても値段は安い。実際は食材が農協に集まりますから、当然スーパーよりも農協の方が安くなります。どのお店にも旬の野菜をなるべく使ってもらって、走り、旬、名残りとかの話をしてもらえると、お店で食べるときに美味しく感じられると思います。練馬大根を夏にほしいという人は今でもたくさんいます。大根は冬のものですが、夏でもスーパーにはあるので作れると思うのでしょうか。夏にある大根は、作るとしたら夏大根がありますが、非常に見栄えが悪いものなので基本的には表

には出てきません。旬についての意識も皆さんに高めていただければと思います。

(委員) 食育応援店については、前の健康づくり協力店のように数を増やすことだけを求めると劣化するし、質を求めると数は少なくなってしまうと思います。僕は自分がお店をやるにあたってすごくこだわっていて、旬についてはJAに通ったりして勉強していますが、たぶんここまでやるお店はそんなに無いと思います。だからまずはお店の教育が必要ということと、食育応援店をよりブラッシュアップするために、どんなお店でも登録するというのではなく、どのようなお店に食育応援店になってもらうかを考えていきたい。いいものだけ広げすぎると収拾がつかなくなってしまいます。僕は推薦する人についてはある程度食の知識がある人をお願いするのがいいのではないかと考えています。良いものにしよう、個人的にはいろんな思いや戦略がありますが、お店側としては色々な葛藤もあります。ここから先、商人はいかにお金をかけないでそれをクリアしていくか、お客様にそれを伝えるかというのが勝負です。事務局は大変な立ち位置にいるかも知れませんが、このネットワーク会議での委員の皆さんの意見を優先して、これからもこの難局を乗り切って行きましょう。よくここまで出来ました。素晴らしい。ここから先はさらに厳しいけれども大丈夫。食育応援店を本当にいいものにするためには人のマネではなく、目の前のことをとにかくひとつずつやっていくことの積み重ねでしかないかなと思います。

(委員) 食育応援店についてはまだ周知されてないことを感じています。昨年この会議で作成した情報紙を店に置いていて、親しい人にねりまの食育応援店は知っている？と声をかけても、まだ周知されていないことを実感しています。食材に関してですが、提供する側としては旬のものを多く使うと安く提供できますし、個人経営ですので、楽しく美味しく、そして安く食べていただけるように進めていきたいと思います。食育応援店についてはとにかく皆さんに知っていただくことが一番かと思っています。

(委員長) 部会の報告と委員の皆様からご意見をいただきましたが、全体で事業化に向けたアイデアをそれぞれにいただきたい。せっかくの機会ですので、庁内幹事も含めてざっくばらんに意見交換出来ればと思います。健康部では11月1日から「ねりまちてくてくサプリ」の配信を開始しました。特に働く世代、子育てに忙しい世代の方が生活の中で健康づくりに取り組めるようにということで、スマートフォン用のアプリを開発しました。ここで幹事から説明させていただきます。

(庁内幹事) ねりまちてくてくサプリの説明

(委員長) 若い世代への食育の発信については、アプリのようなツールを使うことも大事

なのではないのかと思いますし、アプリだと情報を発信するのにお金がかからないのでぜひ活用についてこの会議でも考えていただけたらと思っております。このアプリは健康推進課だけではなく、商工の分野や農業関係の分野、まちづくり関係の部署など庁内の様々な部署の情報も取り入れています。練馬のまちの魅力を楽しんでいただきながら健康づくりが出来るというコンセプトで、いろいろなコンテンツを入れております。コンテンツは増やしていきますので、情報発信を充実し、区民の皆様の健康づくりのお手伝いをしていきたいと思っております。アプリにはお楽しみの機能もついています。若い世代部会のアプローチ案で挙げられているコンテストを行うなどは可能でしょうか。

- (副委員長) 写真はお知らせで入れることが出来ますので、例えば中学校のコンテストで1位~3位の写真を撮ってアプリでお知らせすると、中学生が作ったものを多くの方に発信できるのではないかと思います。
- (委員長) 朝ごはんコンクールのメニューを紹介することも、出来なくはないと思います。もちろん個人情報を入れられないような形にします。あとは現在行っていますがキャンペーン機能もありますので、目標とする歩数を歩いたら景品がもらえるということも可能です。今後は区内事業者のご協力をいただいてキャンペーンが出来ないか検討していて、ねりまの食育応援店にもご協力いただけないかと心の中で期待しています。
- (庁内幹事) 現在実施しているキャンペーンのプレゼントは血圧計、塩分計、アームバンド携帯計の三つから選んでいただくことになっています。
- (委員長) 若い世代部会について何かご意見はありますか。保健相談所では「赤ちゃんからの飲む食べる相談」を始めましたが、今、若い世代が食事を作ることや、子どもが生まれてから離乳食を作ることを負担に思っている人が多いという現状があります。もう少し若い時から食事づくりを体験することや、知識を持つにはどうしたらいいのかを考えた時に、アプリやツイッターやインスタグラムなどのツールを活用するといいいのではと思いました。若い世代向けのアプローチを考えるにあたっては、お金をかけるのは少しハードルが高いので、インスタグラムやツイッターなどのSNSを使うと少し関心を持ってもらえるのか、若い世代の方の感覚をお聞きしてもよいでしょうか。
- (委員) インスタ映えという言葉はご存じですか。例えば食育応援店で、インスタ映えをするきれいな料理を出していれば若い人はすごく行きたくなると思います。ツイッターだとお店の情報を発信するアプリなので、インスタグラムとは違いがあると思いますが、若い人たちには食事の見た目が重視されています。実際に食育応援店に行かせていただきましたが、若い人受けをするメニューがあるといいいなと思いました。

- (副委員長) どんなメニューだと若い人向けになりますか。
- (委員) やはりカラフルなことは重要で、野菜をきれいに盛り付けたりすると見栄えが良くなります。斬新な盛り付けだと結構流行ると思います。
- (委員長) そういうところから食に関心を持っていただくというような取り組みを少し考えた方がいいかも知れないですね。インスタ映えをするようなメニューをアプリで発信するとかね。
- (事務局) 若い世代部会の中では、生活が変わるときに意識を変えることが出来るのではないかとということで、結婚する時や成人式などのところで取り組んでいこうというご意見をいただきました。今、インスタ映えの話を聞いて、若い世代へのアプローチで食育応援店と何かコラボ出来るものはないかと感じました。
- (委員) 食育応援店の方に協力してもらえばメニュー開発はそんなに難しくないと思います。ヘルシーメニューなどの若い人向けのいちおしメニューを作ればいいのではないかと思います。
- (事務局) 大変参考になりました。ありがとうございます。
- (委員長) 今、若い世代部会とねりまの食育応援店部会の報告を受けて、全体で何か新しいアイデアがないかご意見をいただいているところです。若い世代の新しいアイデアについて改めてご意見をお願いします。
- (委員) ツイッターは文メインの発信なので、読み流してしまう部分もありますが、インスタグラムはダイレクトに写真で伝わります。見た目のきれいさやかわいさという点ですと、一目で見て「いいね」と広がっていきますので、インスタグラムの方がいいと思います。
- (副委員長) 11月1日からスマートフォンのアプリ「ねりまちてくてくサブリ」を開始しましたが、このようなアプリを活用するのはどうでしょうか。
- (委員) アプリは若い人が親しみをもちやすいですし、活用するのはよいと思います。その時には写真があるとよりよいと思います。
- (委員長) 食育応援店のいちおしメニューのインスタグラムを作ることも一つ方法としてあるでしょうか。
- (事務局) 現在食育応援店については区のホームページで情報発信しています。インスタ映えするような写真を発信するということですね。
- (委員長) アプリの活用については、次回それぞれの部会でぜひご検討いただければと思います。ちなみにねりコレについては今度新しくリニューアルします。ねりコレの応募と食育応援店とを両方お店にやってもらうというのはいかがでしょうか。
- (委員) 僕は最初それが戦略かと思いました。素晴らしいと思いました。ただねりコレを出しているお店もいろいろあるので少し不安に思っているところです。ねりコレのお店に食育応援店になって下さいと声をかけたときに、お店側が協



力しますというお店に入ってもらふ形を私としてはすごく期待しているところ  
です。いいお店を入れる作戦としては、ある程度絞った基準があるといいと  
思いますが、個人的にはねりコレと食育応援店は共存して欲しいところです。

(委員長) 食育応援店は庁内の他部署の職員も入った選定委員会で、一定の基準を確認で  
きれば登録する形をとっています。ねりコレは外部の方も入った審査会で選  
定をする形ですので主旨が少し違いますが、食育応援店とねりコレのどちら  
かに応募したらどちらかが出来ないとか、そういうことではないと思ってい  
ます。先ほど、食育応援店はなかなか知られていないというお話がありました  
ので、相乗りできれば広げられるかなと思った次第です。

(委員) とてもいいと思います。

(委員長) 我々としてはいろいろ宣伝をしてお店も開拓するつもりです。

(事務局) 食育応援店ですので、食育に取り組んでいるお店を推薦していただき、選定委  
員会で基準に達することを確認できれば、食育応援店になっていただけます  
ので、すごくハードルが高いというものではありません。ぜひ食育に取り組ん  
でいるお店を紹介していただければと思っております。

(委員長) 先ほどお話があったように、野菜には旬があって、走りや名残りというのもそ  
れぞれ美味しさがあるというようなことを伝えていくのが食育だと思います。  
何か食育につながる取り組みというのを、ぜひそれぞれのお店でやってい  
ただけるように考えていきたいと思います。

(事務局) 一言で食育といってもどのようなことが食育なのかをわからない方もいらっ  
しゃいますので、私たちの方で食育の取組例についてはいくつかお店に提案  
させていただいています。もし食育の取組について問い合わせをいただいた  
ら、ご案内させていただきますのでぜひお声がけをお願いいたします。

(委員) どうやって食材を買ってもらうかについてですが、例えば農協で売っているカ  
リフラワーは普通に売っているものよりかなり大きいです。それをお客さん  
に実感させることで買ってもらう方法があります。組合員さんも見栄えをす  
ごく気にして作ります。あとは、焼き芋が大好きな人でも今日みたいな暖かい  
日には買いませんよね。これが正直なところで、人はちゃんと理由があって買  
います。おでんもどんなに好きな人でも今日みたいな暖かい日は夕飯の食卓  
に並ぶことはないですよ。だからその時の環境を覆してでも食材を買って  
もらうには、食材自身に変化が必要です。もう味がわかっているものは特にイ  
ンパクトが必要です。例えば種子島の安納芋は絶対甘いことはわかっている  
けれど、焼き芋にしないと売れません。この間のねりマルシェでシルクスイ  
ートとマロンゴールドを焼き芋にして売りましたが、炎天下の中でも 500 本く  
らい売りました。やっぱり美味しいからと言って買ってくれる。ちなみに買っ  
た人の 8 割は 60 歳以上でした。これを若い人を買ってもらおうとしたらまるき

り逆転の発想しかありません。少し前まで銀座で売っていた冷やし焼き芋は夏に売れていましたが、もしそれをやるとしたら、若い人に来てもらわないと売れません。若い人に来てもらうには冷たくても美味しそうに見えるインスタ映えした写真が必要です。どうしたら買いたくなるかの情報は若い人から聞かないとわからないよね。僕らも若い人に来てもらうために苦労しているいろんなことを考えますが、それが本当に実りになるかというのは本当に難しく、統計をとるとマルシェでも買いに来るのは高齢者が多いことが分かっているところでどうするかというのは非常に難しいということです。ぜひ若い人の意見をください。あと、アプリに関しては、アプリを使って直売所を巡った時に、見栄えのいい野菜をきれいに写すと若い人も見てくれると思って、この野菜が今この直売所にありますという情報をリアルタイムで載せられると買う気になるかなという話になっていました。

(委員) それは買う気になります。買いたくてもどこにどの時間帯に売っているのかわからないので、行って無かったら嫌になります。

(委員) 農協に来る人には昼過ぎに来たら何も無いって年中言われます。お昼でもまだ名物のキャベツがありますといった情報がアプリに出てくると行こうという気になりますか？

(委員) なります。

(委員) ありがとうございます。引き続き検討していきたいと思います。

(委員長) それではいただいたご意見につきましては次回の部会会議で検討していきたいと思います。それでは案件6の農業祭の出展について、事務局から資料6を説明させていただきます。

(事務局) 資料6の説明

(委員長) JA東京あおばの農業祭は食育ネットワーク会議として出展させていただくので、委員の皆様でもしご協力いただけるという方がいらっしゃいましたら事務局までお伝えください。本日はお忙しいところご協力いただきましてありがとうございます。次回は来年2月6日に部会会議で委員の皆様にはお集まりいただくようお願いしております。それでは本日の食育推進ネットワーク会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。